

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11) 特許出願公開番号

特開平9-56289

(43) 公開日 平成9年(1997)3月4日

(51) Int.Cl.⁸

A 0 1 K 9/00

識別記号

庁内整理番号

F I

A 0 1 K 9/00

技術表示箇所

審査請求 有 請求項の数 3 F D (全 4 頁)

(21) 出願番号 特願平7-240907

(22) 出願日 平成7年(1995)8月25日

(71) 出願人 595133644

武内 洋一

大阪府大阪市北区豊崎3丁目6番4号

(72) 発明者 武内 洋一

大阪府大阪市北区豊崎3丁目6番4号

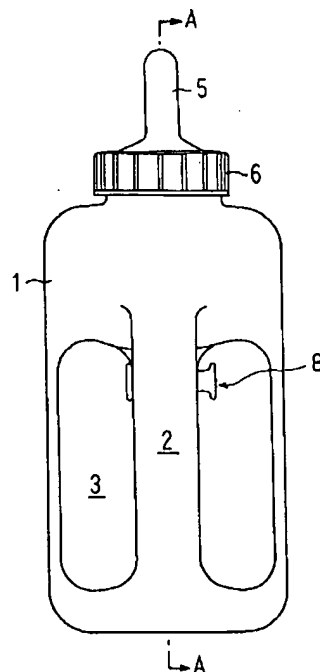
(74) 代理人 弁理士 岩永 方之

(54) 【発明の名称】 家畜用哺乳びん

(57) 【要約】

【課題】 ミルクの注出が良くなり、吸引力の弱い子牛でも容易に吸うことができると共に、片手で把手を持って授乳させるので授乳のさせやすい家畜用哺乳びんを提供することを目的とするものである。

【解決手段】 本発明に係わる家畜用哺乳びんは、合成樹脂製の哺乳びん本体1の背面に、哺乳びん本体1と連通する中空把手2を一体的に設け、該中空把手2に、該中空把手内部への外気の導入、閉止用のバルブ8を付設して構成されている。



1

【特許請求の範囲】

【請求項1】 合成樹脂製の哺乳びん本体の背面に、哺乳びん本体と連通する中空把手を一体的に設け、該中空把手に、該中空把手内部への外気の導入、閉止用のバルブを付設したことを特徴とする家畜用哺乳びん。

【請求項2】 バルブを中空把手の上方部に付設した請求項1に記載の家畜用哺乳びん。

【請求項3】 バルブは中空把手に貫設された横孔に挿通され、中空把手の一侧に突出したバルブの鋸部を押進することにより、中空把手内部への外気の導入、閉止が行なわれるように構成された請求項1に記載の家畜用哺乳びん。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】本発明は、主として牛、馬、豚などの家畜動物、特に幼牛の授乳に用いる哺乳びんに関するものである。

【0002】

【従来の技術】一般に家畜動物、例えば親牛が子牛を生むと、その子牛は親牛の母乳を飲んで育つことになる。ところが、中には母乳の出の少ない親牛がいたり、或いは親牛の乳首をうまく吸えず母乳を上手に飲めない子牛がいたりすることがある。

【0003】また、美味で知られる和牛の生産者の間では、乳牛のホルスタインの精子を肉牛に受精させて出来た子牛の肉が良質であることから、両牛の掛け合わせが盛んに行なわれているが、この掛け合わせによって出来た子牛は、親牛の母乳を飲まないで、人の手で授乳させて育てなければならなかった。

【0004】このような場合は、乳幼児に母乳やミルクを飲ませる時に用いる円筒形のびんと、先に小孔の明けた乳首とからなる哺乳びんを大きくしたようなものにミルクを入れて飲ませている。

【0005】

【発明が解決しようとする課題】しかしながら、この哺乳びんでの授乳は、吸引力の弱い子牛にはミルクを充分吸い込む力がなく、ミルクの出が悪くて子牛にとっては非常に飲みにくく、かつ授乳に時間がかかりすぎると共に、容器に容量目盛が施されていないので、飲み残した時にどれくらい飲んだか確認しにくいと言う問題があった。

【0006】また、この哺乳びんの容量は、500cc前後と少量であることから、授乳時には数本用意しなければならない煩わしさがああり、かつ授乳時には哺乳びんの本体を持って逆さまにしなければならず授乳させることができなかった。

【0007】本発明は上記のような問題を解決することを課題として研究開発されたもので、ミルクの注出が良くなり、吸引力の弱い子牛でも容易に吸うことができると共に、片手で把手を持って授乳させるので授乳のさせ

2

やすい家畜用哺乳びんを提供することを目的とするものである。

【0008】

【課題を解決するための手段】上記の課題を解決し、その目的を達成する手段として、本発明の請求項1の発明は、合成樹脂製の哺乳びん本体の背面に、哺乳びん本体と連通する中空把手を一体的に設け、該中空把手に、該中空把手内部への外気の導入、閉止用のバルブを付設した家畜用哺乳びんを開発し、採用した。

【0009】また、請求項2記載の発明は、前記のように構成した家畜用哺乳びんにおいて、バルブを中空把手の上方部に付設した家畜用哺乳びんを開発し、採用した。

【0010】さらに、請求項3記載の発明は、上記のように構成した家畜用哺乳びんにおいて、バルブは中空把手に貫設された横孔に挿通され、中空把手の一侧に突出したバルブの鋸部を押進することにより、中空把手内への外気の導入、閉止が行なわれるように構成された家畜用哺乳びんを開発し、採用した。

【0011】

【発明の実施の形態】以下に、本発明の実施の形態を、添付図面に基づいて説明する。1はポリエチレン、ポリエチレンテレフタレート、ポリカボネード等の合成樹脂をブロー成形またはインジェクションブロー成形で形成した容量が1500cc～2000ccの従来より使われている哺乳びんより数倍大きな哺乳びん本体で、その正面部に容量目盛線1aが施されている。

【0012】哺乳びん本体1の背面には哺乳びん本体1と連通する中空の把手2が一体的に取付けてあり、その把手2の内側の本体1には把手2を握った時に指が当たらないように窪み部3が形成されている。また上部には本体1内を洗浄しやすいように比較的広い口部4が形成してあり、その外周部に雄ネジ4aを螺設してある。

【0013】5は子牛が噛んだりしても破れることのないや、肉厚のゴム製からなる乳首で、先端に注出孔5aが穿設されていると共に、基端部5bが截頭円錐状に形成されており、口部4と螺合するリング締付体6の中央開口部6aに嵌って取り付けられている。

【0014】把手2の上方部には、一側面から他側面に貫通する横孔7が穿設されていると共に、その中央部に把手2の内部と連通する縦孔7aが明けられている。横孔7には把手2の幅Wよりも長く、横孔7の径よりもやや小径のバルブ8が挿通され、その一端に設けた鋸部9bが把手2の側方より突出して、この突出鋸部9bを指で押圧することによりバルブ8を摺動自在に構成してある。

【0015】このバルブ8は、図5に示すように、一方の外端に鋸部9aを設け、その内端側を細径の筒体10aとし、かつOリング11aが嵌る凹溝12aを設けた長筒体8aと、他方の外端に鋸部9bを設け、その内端

側の先端にＯリング１１ｂが嵌る凹溝１２ｂを設けた短筒体８ｂと、その長筒体８ａと短筒体８ｂとの間に介在させた、長筒体８ａの細径の筒体１０ａを挿嵌する接続パイプ１３と、短筒体８ｂの中心孔１４ｂ内に外端側から螺入して長筒体８ａの中心孔１４ａに到達係止させたネジ１５から構成されており、このようにして長筒体８ａと短筒体８ｂを一体化したものである。

【００１６】このように構成した本発明の使用態様を説明すると、リング締付体６を緩め口部４との螺合を解き乳首５を口部４から取り脱して口部４からミルクを入れた後、乳首５をリング締付体６の中央開口部６ａに差し込み、リング締付体６と口部４を螺合させて授乳させるものである。

【００１７】授乳に際しては、哺乳びん本体１の把手２を片手で持ち逆さまにして、閉止されているバルブ８（鍔部９ｂが把手２の右方に突出した図７の状態）の鍔部９ｂを人差指で押進することにより、バルブ８が左に摺動し他方の鍔部９ａが把手２の左方に突出され（図６の状態）、接続パイプ１３と横孔７との間に隙間Ｓができ、その隙間Ｓから空気が流入し、哺乳びん主体１内に入り吸引力が弱くてもミルクの注出量が多くなり、最後まで楽に飲むことができる。

【００１８】また、左方に突出した鍔部９ａを反対側に押進するとバルブ８が右方に摺動し、他方の鍔部９ｂが右方に突出して接続パイプ１３と横孔７との間の上記した隙間ＳがＯリング１１ｂで塞がれ空気が流入しなくなり、ミルクの注出量が少なくなる。

【００１９】このように授乳時にバルブ８を左右方向に摺動自在とすることにより、バルブ８と横孔７との間の隙間Ｓが外気と通じたり、塞がったりして空気の流入・閉止が行えミルクの注出量を調整できると共に、哺乳びん本体に容量目盛が施されているので、飲み残した場合、どれくらい飲んだか確認できる便利さがある。

【００２０】

【発明の効果】以上説明したように、本発明の家畜用哺乳びんによれば、バルブを開とすることにより、中空把手内部への外気導入が行なわれミルクの注出量が多くなり、バルブを閉とすることにより、外気の導入が阻止されミルクの注出量が少なくなり、その時の幼牛の要求量や成長度に応じてミルクの出の調整ができる便利さがある。また、片手で把手を持って授乳させるので授乳させやすくなる。

【００２１】また、請求項２記載の発明によれば、把手を持つての授乳時に右利きの人はバルブを閉める時は親指で、左利きの人は人差指で行うことができ、バルブを開ける時は人差指で、左利きの人は親指で操作ができ、右利き、左利き両者兼用でき手で持ったま、バルブの開閉操作を行うことができるものである。

【００２２】また、請求項３記載の発明によれば、一方の鍔部が把手の側面から突出しているのので、指での押圧操作が容易となりかつ確実に行うことができる。

【図面の簡単な説明】

【図１】本発明の家畜用哺乳びんの正面図である。

【図２】本発明の家畜用哺乳びんの背面図である。

【図３】図２のＡ－Ａ線縦断面図である。

【図４】把手の１部縦断面図である。

【図５】バルブを分解した縦断面図である。

【図６】バルブが開いた状態の縦断面図である。

【図７】バルブが閉止した状態の縦断面図である。

【図８】使用状態を示す説明図である。

【符号の説明】

１ 哺乳びん本体

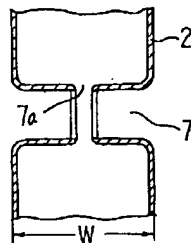
２ 中空把手

７ 横孔

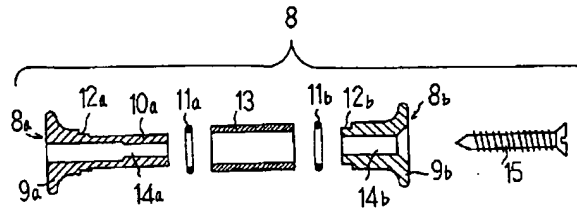
８ バルブ

９ａ、９ｂ 鍔部

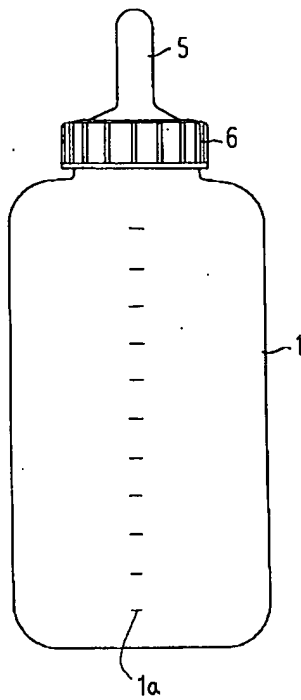
【図４】



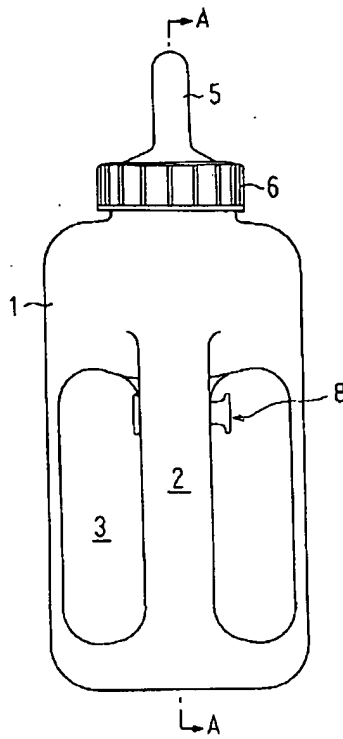
【図５】



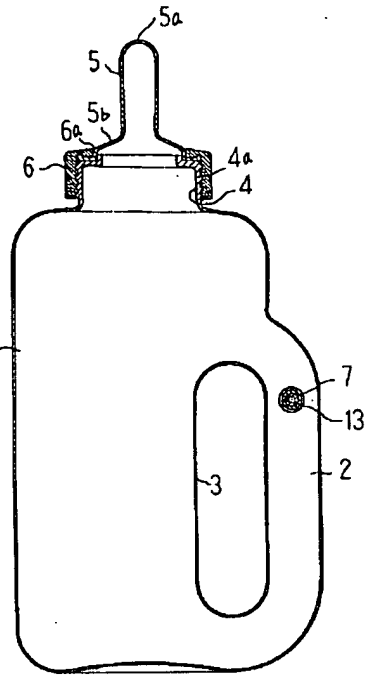
【図1】



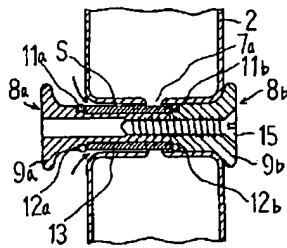
【図2】



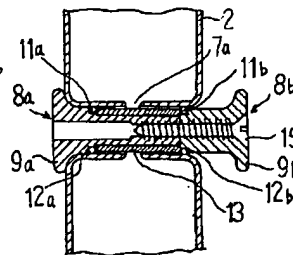
【図3】



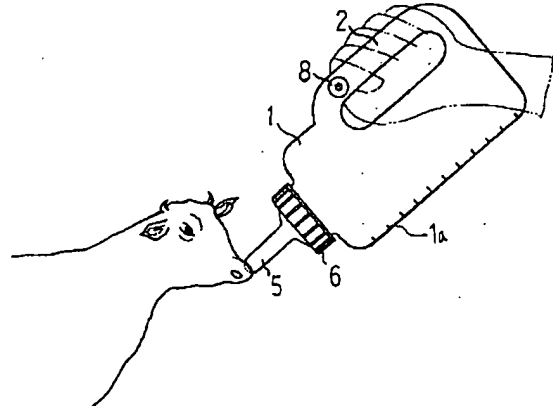
【図6】



【図7】



【図8】



PAT-NO: JP409056289A

DOCUMENT-IDENTIFIER: JP 09056289 A

TITLE: NURSING BOTTLE FOR DOMESTIC ANIMAL

PUBN-DATE: March 4, 1997

INVENTOR-INFORMATION:

NAME

TAKEUCHI, YOICHI

ASSIGNEE-INFORMATION:

NAME

COUNTRY

TAKEUCHI YOICHI

N/A

APPL-NO: JP07240907

APPL-DATE: August 25, 1995

INT-CL (IPC): A01K009/00

ABSTRACT:

PROBLEM TO BE SOLVED: To obtain a nursing bottle for a domestic animal having excellent pouring out of milk, capable of being sucked by even a calf having weak sucking power and readily nursing because of nursing with taking a handle by one hand.

SOLUTION: This nursing bottle for domestic animal is composed of a nursing bottle main body 1 made of a synthetic resin and a hollow handle 2 communicating with the nursing bottle main in body 1 in one body and a valve 8 for introducing and shutting of the open air into the side of the hollow handle attached to the hollow handle 2.

COPYRIGHT: (C)1997,JPO